

帯広市ばんえい競馬運営ビジョン (案)

平成24年3月

帯広市

(平成26年3月一部見直し)

(平成29年2月一部見直し)

(令和2年2月一部見直し)

目 次

はじめに

1 全国の公営競技の現況

- (1) 競馬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 競輪、競艇、オートレース・・・・・・・・ 2

2 ばんえい競馬の概況

- (1) 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (3) 運営体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (4) 開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (5) 農用馬の生産状況・・・・・・・・・・・・ 5

3 ばんえい競馬の果たしている役割

- (1) 馬文化の伝承・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (2) 地域経済への貢献・・・・・・・・・・・・ 6
- (3) 観光資源としての可能性・・・・・・・・ 7
- (4) 農用馬生産への寄与・・・・・・・・・・・・ 8

4 ばんえい競馬運営の現状と課題

- (1) 勝馬投票券発売額、本場入場者数の推移 9
- (2) 経営状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (3) これまでの運営改善等の主な取り組み 12
- (4) 運営改善の成果と課題・・・・・・・・・・・・ 14

5 今後のばんえい競馬の展開方策

- (1) 基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (2) 具体的な取り組み・・・・・・・・・・・・ 16
- (3) 収支見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

はじめに

昭和28年に帯広市、旭川市、北見市、岩見沢市の4市がそれぞれ主催する市営競馬として発足したばんえい競馬は、平成元年には開催4市を構成団体とする北海道市営競馬組合へと運営体制を変更するなど経営の合理化を図りながら、その売上により地方財政や地域経済に大きく貢献するとともに、北海道ならではの公営競技としても多くの道民に親しまれてきました。

しかしながら、長引く景気の低迷やレジャーの多様化等により、平成3年度をピークに勝馬投票券発売額が急速に減少し、大幅な累積赤字が計上されるなど経営の改善が見込まれないことから、平成18年度をもって4市による競馬開催は廃止されることとなりました。

帯広市としても、一旦は存続困難と判断したものの、全国のファンや競馬関係者、市民からばんえい競馬存続の強い要請を受け、また、競馬関係者等の協力や民間企業の支援が得られることとなったことから、平成19年度から帯広市単独で「ばんえい十勝」として開催することとなり、今日に至っています。

その後、5カ年にわたり多くのファンや競馬関係者などの協力をいただきながら、様々な経営の改善に取り組むとともに、観光をはじめとして地域経済へも大きな貢献をしてまいりましたが、その一方で勝馬投票券発売額は毎年減少を続けており、馬主や競馬関係者への報償費や競馬事務を受託する民間企業への委託料も減少を続けている現状にあります。

こうした厳しい状況を受け、ばんえい競馬の継続開催に向けたあり方について幅広い観点から検討するため、昨年5月に公募による一般市民や学識経験者、競馬関係者らによる「帯広市ばんえい競馬検討委員会」を設置し、6回にわたる検討を重ね、昨年11月に報告書が提出されたところです。

この「帯広市ばんえい競馬運営ビジョン」は、検討委員会から提出された様々な提言を踏まえ、ばんえい競馬の安定的な継続開催に向けて全ての関係者が認識を一つにして取り組んでいくために、中期的な経営改善の展開方向や収支見通しなどを示すものです。

ばんえい競馬は、北海道開拓の歴史を今日に伝える貴重な文化遺産であり、かつ、地域振興を担う重要な財産でもあります。私は、これまで多くのファンに感動と勇気を与えてくれた、世界で唯一帯広にしかないばんえい競馬を今後とも存続させていくという強い決意を持って、地元である帯広・十勝はもとより、北海道さらには全国の皆さんと手を携えて努力してまいります。

平成24年3月

帯広市長 米沢 則寿

1 全国の公営競技の現況

公営競技は、戦後における復興財源など、収益金を主として地域の公共目的達成のために使用することを目的として開催されており、各公営競技の根拠法令により、実施場所・開催回数・開催方法など事業の実施に対して厳格な制限が加えられています。現在、日本で開催されている公営競技は以下の4つです。

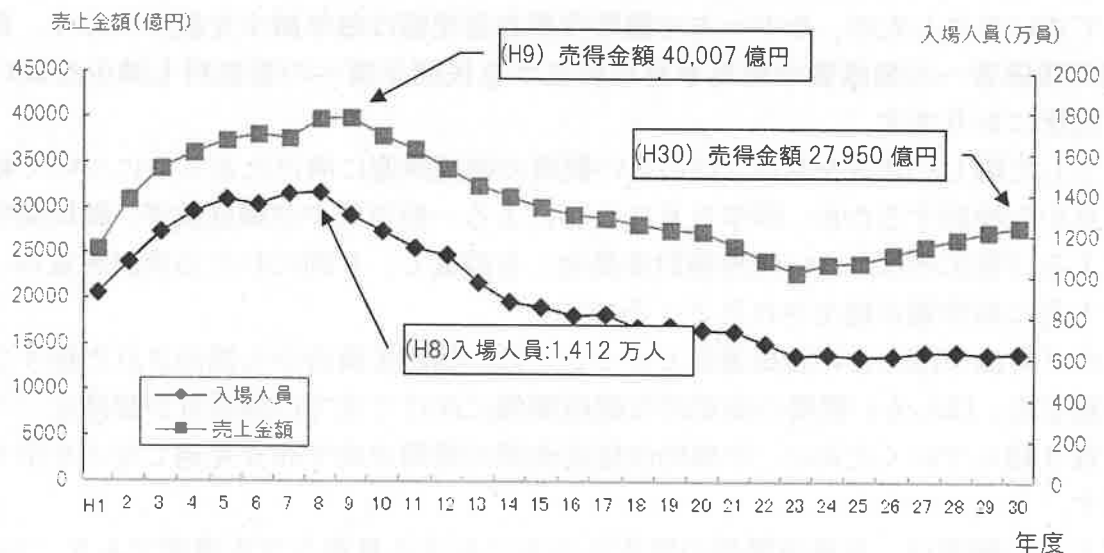
(1) 競馬

① 中央競馬

中央競馬は日本中央競馬会（以下JRA）が主催しており、全国に10箇所の競馬場と41箇所の場外馬券発売所を展開しています。

勝馬投票券（馬券）の売上げは平成9年度の約4兆円をピークに14年連続で減少し、平成23年度は2兆2,936億円とピーク時の約57%にまで落ち込みましたが、その後は増加に転じて平成30年度には2兆7,950億円とピーク時の約70%まで回復しています。

中央競馬 入場人員及び売上金額の推移グラフ



(資料：地方競馬全国協会)

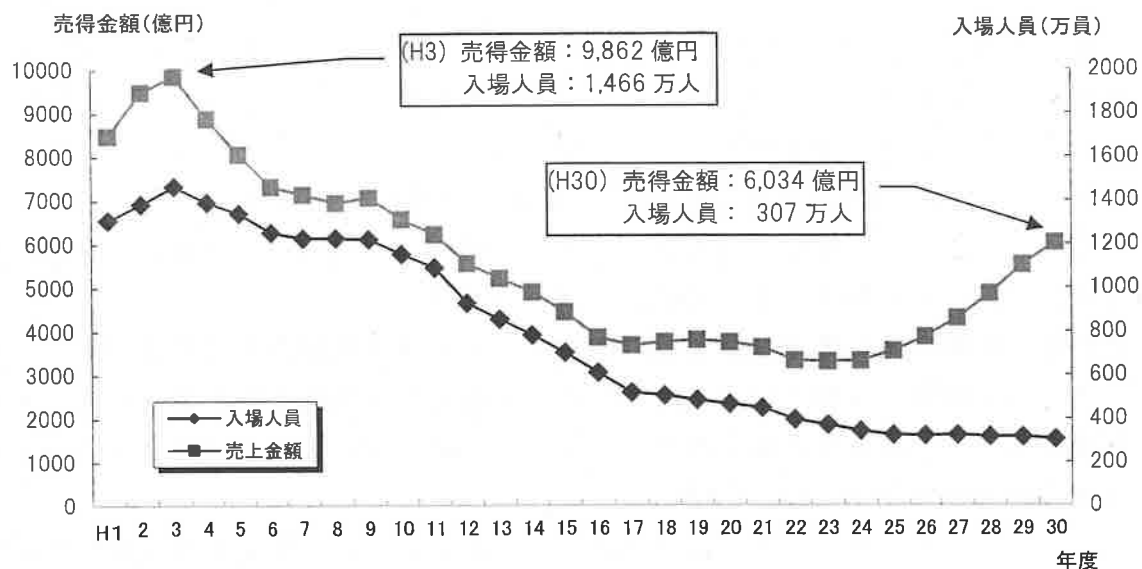
② 地方競馬

地方競馬は、都道府県または総務大臣により指定を受けた市町村、もしくはこれらの地方公共団体により構成される一部事務組合により実施されており、平成30年4月現在、地方競馬を開催している主催者は、全国で2道県、2市、10一部事務組合の合計14主催者となっています。

勝馬投票券の売上げは平成3年度の9,862億円をピークに平成23年度では3,314億円とピーク時の約34%にまで減少し、JRAと同様に平成24年度

から増加に転じ平成30年度には6,034億円とピーク時の約61%まで回復していますが、入場人員は微減しています。

地方競馬 入場人員及び売得金額の推移グラフ

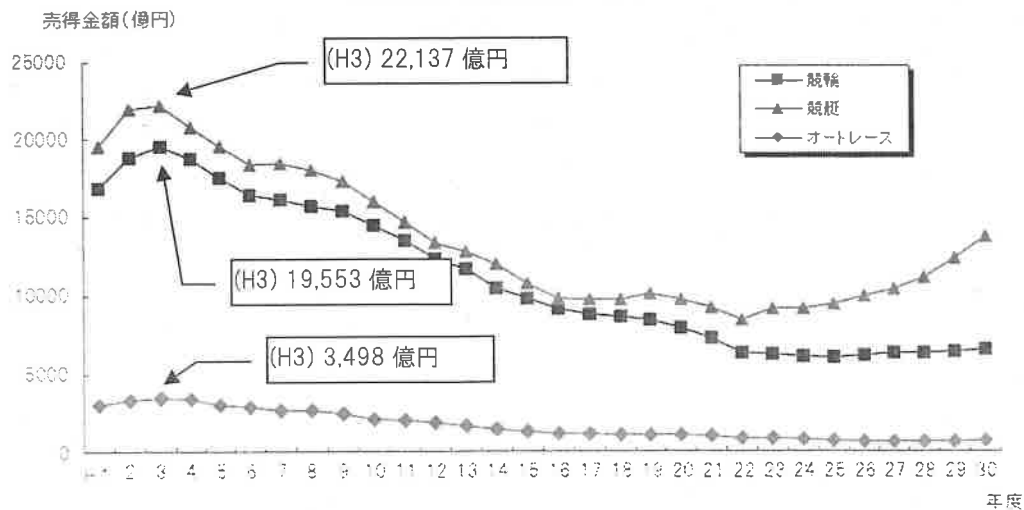


(2) 競輪、競艇、オートレース

平成30年4月現在、全国に競輪場は43場、競艇場は24場、オートレース場は5場が存在しています。

いずれも平成3年度の売上げをピークとして、以降、競馬と同様に売上げの減少が続き、競艇は平成23年度以降増加に転じ、競輪については平成26年度以降微増となっており、オートレースについては横ばいとなっています。平成30年度の売上げはピーク時に対し、競艇が62%、競輪が33%、オートレースが20%となっています。

公営競技 売得金額の推移グラフ



2 ばんえい競馬の概況

(1) 沿革

ばんえい競馬は、当初、明治時代の北海道開拓において交通、運搬、農作業などに活躍した馬の価値や力を試すための競争として始まり、その後、農村地域を中心に娯楽として開催された「お祭りばんば」により定着しました。現在でも十勝管内をはじめ、道内各地で地域行事として開催されています。

公営のばんえい競馬は昭和24年に北海道の主権により開催されたのが始まりで、昭和28年には、競馬法の改正を受けて、旭川市、帯広市、北見市、岩見沢市の4市がそれぞれ主催する市営競馬がスタートしました。

その後、開催日程の競合や賞金額の格差など4市独自開催による弊害が生じてきたことから、経営の合理化などを図るため、平成元年に開催4市を構成団体とする一部事務組合（北海道市営競馬組合）を設立し、平成3年度には約323億円と過去最高の勝馬投票券発売額を記録しました。

しかし、この年を境にバブル経済崩壊などの影響を受け、勝馬投票券発売額が急激に減少し、収益率も大幅に悪化したことから、経営再建に向けて検討が行われましたが、平成18年度をもって4市による競馬運営は廃止し、一部事務組合の解散と補償を含めた全債務について清算することが決定されました。

平成19年度からは、ばんえい競馬の存続に向けた民間企業からの具体的な提案を受けたことや競馬関係者等からの支援が期待されたことから、帯広市の1市単独によるばんえい競馬の開催を決定し、「ばんえい十勝」として再スタートして今日に至っています。

(2) 施設概要

ばんえい十勝の本場である帯広競馬場は、土地及び建物のほとんどを十勝農業協同組合連合会から帯広市が賃借しています。総面積は約40万㎡、馬場200mダート、スタンド収容人数4,600人、有料席72席となっています。

JR帯広駅から車で約7分と中心市街地からほど近く、無料駐車場は400台の収容が可能となっています。

場内に設置されている厩舎は28棟、672馬房で、うち在厩馬は平成30年度の平均で626頭となっています。

また、場外発売所は道内各地に8箇所（旭川市、岩見沢市、北見市、釧路市、名寄市、網走市、札幌市（琴似）、深川市）設置しています。

平成22年8月には、ばんえい競馬との相乗効果による集客力の向上を図るため、帯広競馬場内に観光交流拠点施設「とちちむら」がオープンし、市内でも人気のある観光スポットの一つとなっています。

平成30年度には、スタンドの耐震補強工事が行われたほか、地方競馬全国協会の第三期地方競馬活性化補助事業を活用し、老朽化が進む厩舎2棟の建替えを行いました。

令和元年度においても、厩舎2棟の建替えをはじめ、スタンド内身障者トイレのオストメイト化およびエレベーターの設置を行うなど、バリアフリーに対応するとともに健康増進法への対応として喫煙室の改修などを行っています。

(3) 運営体制（平成31年4月1日現在）

帯広競馬場における競馬関係者は、馬主291名、調教師30名、騎手18名、厩務員98名となっています。

競馬の開催に関する事務を処理する開催執務委員等については、正職員6名、定形嘱託職員9名、非常勤嘱託職員4名、事務補助職員1名の計20名体制となっています。この他、投票、番組編成、馬場管理、場外発売所、広報、警備、清掃、映像管理、放送関係、獣医師、装蹄師など238名が勤務しています。

(4) 開催状況

ばんえい十勝は、土・日・月曜日を中心として、令和元年度（平成31年度）は年間151日の開催を予定しています。

また、ばんえい競馬の開催日には中央競馬8レース以降の勝馬投票券を販売し、非開催日には南関東競馬（大井、川崎、船橋、浦和）、ホッカイドウ競馬など他場で開催されている地方競馬を通年で発売しております。

(5) 農用馬の生産状況

農用馬の生産は、ばんえい競馬用及び食肉用としての需要に支えられており、主な生産地は北海道が全体の約9割を占めているほか、東北、九州等で生産されています。近年は、高齢化や後継者不足による農用馬生産農家数の減少に伴い、農用馬の頭数も減少してきており、平成19年から平成27年で農用馬の生産頭数は約5割減少していましたが、各生産振興支援施策の効果により、平成28年から平成30年は横ばいとなっており、一定程度減少に歯止めがかかってきています。

■地域別生産頭数の推移

地域	平成19年	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
北海道	1,930 90.1%	1,672 88.5%	1,680 89.4%	1,501 87.4%	1,433 88.5%	1,261 87.8%	1,197 86.9%	1,116 87.7%	958 87.0%	960 85.7%	979 86.2%	975 86.8%
青森県	31 1.4%	32 1.7%	12 0.6%	25 1.5%	19 1.2%	15 1.0%	21 1.5%	17 1.3%	8 0.7%	17 1.5%	10 0.9%	14 1.2%
岩手県	60 2.8%	54 2.9%	44 2.3%	54 3.1%	33 2.0%	32 2.2%	31 2.2%	30 2.4%	27 2.5%	35 3.1%	33 2.9%	29 2.6%
島根県	37 1.7%	27 1.4%	28 1.5%	20 1.2%	20 1.2%	20 1.4%	21 1.5%	22 1.7%	19 1.7%	19 1.7%	10 0.9%	13 1.2%
熊本県	60 2.8%	85 4.5%	87 4.6%	97 5.6%	100 6.2%	85 5.9%	90 6.5%	71 5.6%	80 7.3%	83 7.4%	97 8.5%	83 7.4%
宮崎県	20 0.9%	14 0.7%	21 1.1%	12 0.7%	12 0.7%	23 1.6%	18 1.3%	16 1.3%	9 0.8%	6 0.5%	7 0.6%	9 0.8%
その他	5 0.2%	5 0.3%	8 0.4%	8 0.5%	3 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	2,143 100.0%	1,889 100.0%	1,880 100.0%	1,717 100.0%	1,620 100.0%	1,436 100.0%	1,378 100.0%	1,272 100.0%	1,101 100.0%	1,120 100.0%	1,136 100.0%	1,123 100.0%

(資料：(社)日本馬事協会調べ)

3 ばんえい競馬の果たしている役割

公営競技としての競馬は、「その行う競馬の収益をもって、畜産の振興、社会福祉の増進、医療の普及、教育文化の発展、スポーツの振興及び災害の復旧のための施策を行うのに必要な経費の財源に充てるよう努める」(競馬法第23条の9)こととされており、ばんえい競馬においても、昭和28年に帯広市、旭川市、北見市、岩見沢市の4市による市営競馬が発足して以来、各市の財政や地域経済に大きく貢献してきましたが、長引く景気の低迷やレジャーの多様化などにより、厳しい経営状況が続いています。

しかし、ばんえい競馬は直接的にもたらす収益のほか、地域経済への貢献や観光資源、畜産振興としての側面など、地域振興に大きな役割を果たしています。

(1) 馬文化の伝承

北海道における馬の歴史は明治時代の開拓の歴史に遡り、十勝では依田勉三を中心とする晩成社が明治19年にプラウによる農耕を開始して、現在の十勝農業の発展の基礎を築くなど、農用馬は北海道開拓の原動力として重要な役割を果たしてきました。

ばんえい競馬は、開拓当時の厳しい農耕の合間に馬の力を試したお祭りばん馬が発展したものであり、平成16年には北海道の開拓の歴史と馬文化を伝える「北海道遺産」として選定されています。

(2) 地域経済への貢献

ばんえい競馬の開催による帯広・十勝への経済波及効果は、平成27年度に実施した調査によると、競馬開催に要する施設賃借料や業務委託料をはじめ、調教師・騎手・厩務員・開催関係職員の人件費などの直接的経費のほか、ばん馬の生産に関わる経費、さらには、ばんえい競馬に来場した観光客が支出する交通費、宿泊費、飲食費などの関連経費も含めると、全体で約63億円と試算されています。

平成27年度当時のばんえい十勝の勝馬投票券発売額は約146億円でしたが、平成30年度の勝馬投票券発売額は約244億円となっており、ばんえい競馬が地域経済に与える効果は、関係者の雇用の確保や入場者数の増加からみてもさらに拡大してきていることがうかがえます。

(3) 観光資源としての可能性

ばんえい競馬は、体重1トンを超えるばん馬が鉄そりを引き、200mの直線コースで力とスピードを競う、世界で唯一の競馬です。その発祥は北海道開拓時代の人と馬の歴史に遡り、道民全体の宝である北海道遺産として今日に受け継がれています。

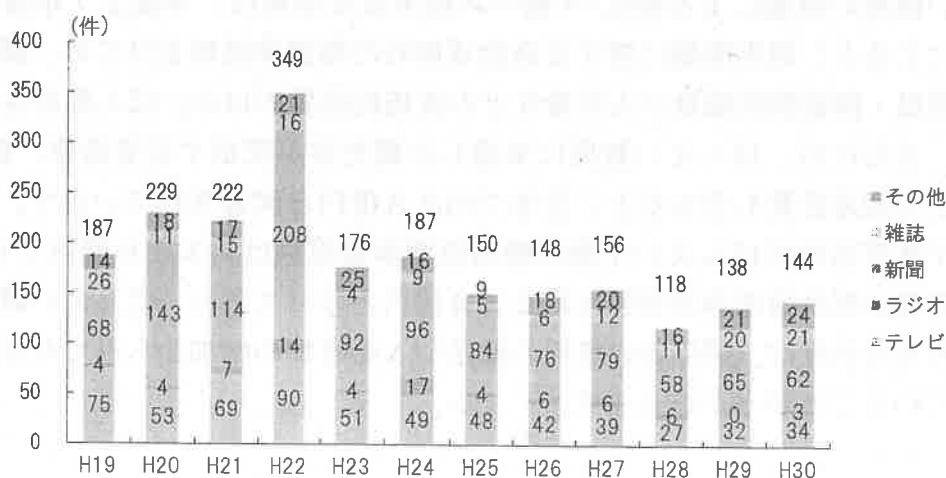
また、ばんえい競馬をテーマとした映画やテレビ番組の作成、雑誌などへの掲載が行なわれているほか、ばん馬の「リッキー号」「ミルクキー号」「キング号」が帯広市の嘱託職員として全国各地の観光イベントに参加するなど、ばんえい競馬と併せて開催地である帯広・十勝の情報を道内はもとより広く全国に発信しています。

令和元年7月には長年PR馬として活躍した「リッキー号」の引退式が行われ、新たに「ハクウンリュウ号」と「フクスケ号」の引継式が行われました。

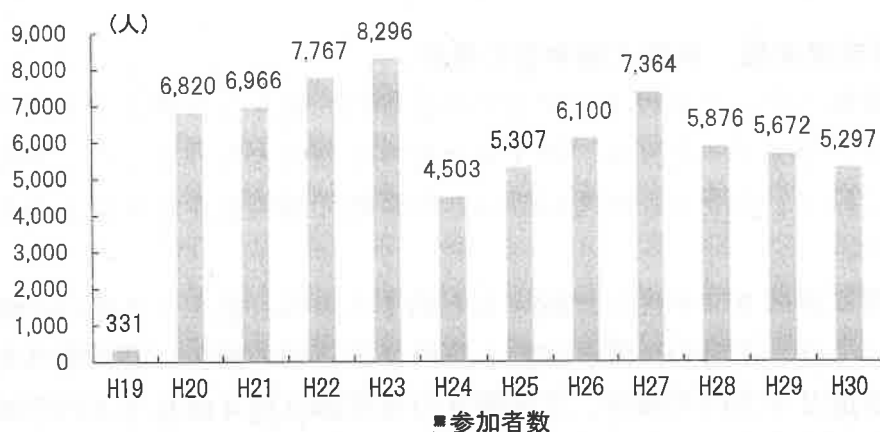
競馬場内では施設を活用して「バックヤードツアー」や「朝調教ツアー」、「ふれあい動物園での馬のふれあい」などの体験型メニューが提供されているとともに、平成29年4月からは「スタート地点体験ツアー」を新たに追加するなど体験型メニューの拡充を行ってきています。また、平成22年8月に競馬場敷地内にオープンした観光交流拠点施設「とちまちむら」とばんえい競馬との相乗効果によってさらに多くの地域住民や観光客が訪れるなど、集客力のある観光スポットにもなっています。

こうしたことから、ばんえい競馬は単に公営競技としてだけでなく、帯広・十勝を国内外に発信する貴重な観光資源としての役割を担っています。

■取材件数の推移



■バックヤードツアー参加者数の推移



(4) 農用馬生産への寄与

農用馬は、かつては農業等における主要な労働力でしたが、農作業の機械化が進んだ現在では、ばんえい競馬用及び食肉用としての需要に支えられています。

しかしながら、生産農家の高齢化の進行や後継者不足などにより、農用馬の生産頭数は年々減少しており、こうした状況が続いた場合には、ばんえい競馬の競走馬の安定的な確保が危惧される状況となっています。

今後、ばんえい競馬を継続的に開催していくためには、競走馬の安定的な確保が不可欠であることから、生産者が安心して意欲を持って農用馬を生産できるよう、ばんえい競馬の安定的な運営を図っていくとともに、国や北海道、地方競馬全国協会などの関係団体に対しても引き続き支援を要請していきます。

また、農用馬の生産振興を図るため、平成27年度からは、帯広市独自による生産者賞を創設しており、平成30年度からは生産者賞の対象競走数及び交付額を拡充したほか、地方競馬全国協会の畜産振興補助を活用し、新たな生産奨励事業として優良軌系馬生産奨励金を交付しました。

4 ばんえい競馬運営の現状と課題

(1) 勝馬投票券発売額、本場入場者数の推移

帯広市単独開催となった平成19年度の発売額は、約129億3千万円でしたが、以後減少が続き、平成23年度は、約103億6千万円となりました。平成24年度以降は増加に転じ、平成25年度以降は6年連続で前年比10%以上の売上増加となっています。

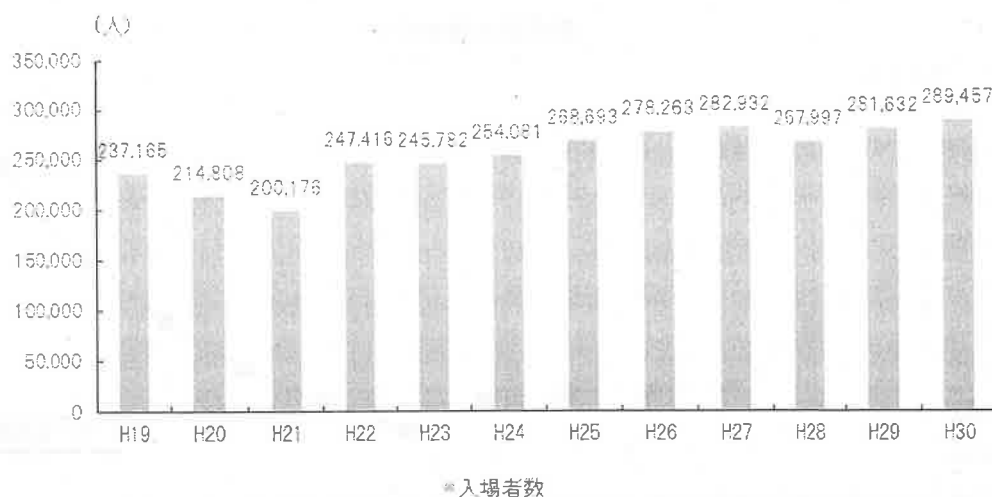
平成30年度は平成19年度と比較すると約188%、約115億円の増加となり、内訳については、本場の発売額は約20億2千万円の減少、直営場外発売所の発売額は約35億2千万円の減少、広域場外の発売額は約4億6千万円の減少となっているものの、インターネット等の電話投票が約175億円増加しており、インターネット等の電話投票による発売の割合が増加しています。

また、本場入場者数は、平成19年度の約23万7千人から減少が続いていましたが、平成22年度は、観光交流拠点施設「とちまちむら」のオープン等により、前年度対比で約4万7千人増の約24万7千人となり、その後も増加傾向が続いており、平成30年度は、平成19年度対比で約5万2千人増の約28万9千人となっています。

■勝馬投票券発売額の推移

年 度	開催日数	発売金額 (円)	前年比	1日平均発売額 (円)	前年比
平成19年度	150日	12,933,971,600	—	86,226,477	—
平成20年度	150日	11,555,358,700	89.3%	77,035,725	89.3%
平成21年度	150日	10,736,137,400	92.9%	71,574,249	92.9%
平成22年度	151日	10,568,312,900	98.4%	69,988,827	97.8%
平成23年度	154日	10,364,421,300	98.1%	67,301,437	96.2%
平成24年度	153日	10,494,580,600	101.3%	68,592,030	101.9%
平成25年度	153日	11,662,642,800	111.1%	76,226,424	111.1%
平成26年度	153日	13,218,352,600	113.3%	86,394,461	113.3%
平成27年度	152日	14,579,315,600	110.3%	95,916,550	111.0%
平成28年度	152日	16,154,093,000	110.8%	106,276,928	110.8%
平成29年度	150日	21,992,641,500	136.1%	146,617,610	138.0%
平成30年度	151日	24,429,193,700	111.1%	161,782,740	110.3%

■ばんえい十勝 本場入場者数の推移



(2) 経営状況

平成19年度の帯広市単独開催にあたっては、民間会社への包括的事務委託を行ったほか、馬主や調教師、騎手、厩務員への報償費も大幅に削減した中でスタートしましたが、発売額の減少傾向に歯止めがかからない状況下、徹底的なコスト削減、場外発売所の新設やナイター開催などにより、収支均衡を維持し競馬運営を続けてきました。

こうした厳しい状況から脱却すべく、平成23年度には、今後のばんえい競馬運営の継続開催にあたり幅広い視点で検討いただくため、学識経験者や一般市民、競馬関係者などで構成する「帯広市ばんえい競馬検討委員会」を設置し、いただいたご提言を基に「帯広市ばんえい競馬運営ビジョン」を策定しました。

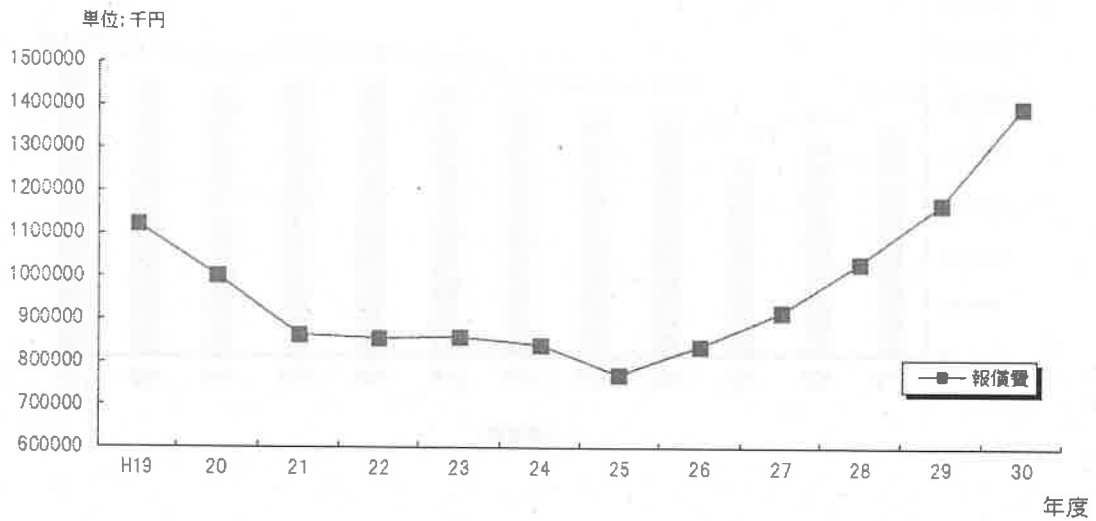
平成24年度には、地方競馬共同の投票システム導入により、新たに三連勝賭式勝馬投票券の発売が可能となったことにより、平成19年度以降減少し続けていた、ばんえい競馬発売額が初めて、前年度を上回ったものの、依然として厳しい運営状況が続きました。

平成25年度には、運営ビジョンに示した取り組みを着実に実施した結果、ばんえい競馬帯広市単独開催7年目にして初めて黒字を計上しました。

平成26年度からは、これまでの民間会社への包括的事務委託による運営体制から、帯広市が競馬主催者として経営責任を担う運営体制に見直し、競馬事務委託会社との情報共有、競馬運営に対する意思統一を図りながら、効率的な運営体制を構築するとともに、積極的な情報発信、ナイター開催日の大幅増などにより、平成30年度までに6年連続で黒字を計上している状況となっています。

■報償費の状況

報償費の推移グラフ



■収支の状況

年 度	歳入総額 (円)	歳出総額 (円)	単年度収支 (円)
平成 19 年度	13,488,546,122	13,488,182,205	363,917
平成 20 年度	11,831,595,428	11,830,890,284	705,144
平成 21 年度	11,010,946,987	11,010,021,117	925,870
平成 22 年度	10,812,761,315	10,812,185,536	575,779
平成 23 年度	10,863,879,717	10,862,966,570	913,147
平成 24 年度	10,994,426,224	10,994,426,224	0
平成 25 年度	12,151,766,609	12,052,184,455	99,582,154
平成 26 年度	13,855,356,427	13,786,830,915	68,525,512
平成 27 年度	15,239,261,359	15,170,293,384	68,967,975
平成 28 年度	16,992,731,065	16,923,950,984	68,780,081
平成 29 年度	22,834,956,929	22,766,553,174	68,403,755
平成 30 年度	25,238,858,331	25,170,799,382	68,058,949

(3) これまでの運営改善等の主な取り組み

帯広市による単独開催を開始した平成19年度以降、以下のような様々な運営改善の取り組みを行なってきました。

① 発売額の向上

- ばんえい競馬初となるナイトー競馬の開催 (H19. 6)
- 五重勝式勝馬投票券の発売 (H22. 1)
- 網走市に場外馬券発売所を新規開設 (H22. 9)
- 開催日を例年比3日間増加 (H23. 4)
- スポーツ紙での馬柱掲載拡充(重賞競走) (H23. 4)
- 三連勝賭式勝馬投票券の導入 (H23. 8)
- 琴似駅前場外発売所を新規開設 (H24. 11)
- 七重勝式勝馬投票券の導入 (H24. 12)
- ホームページ内に「レースの展望サイト」の開設 (H25. 1)
- ナイター開催日数の大幅増 (H25. 4)
- 帯広競馬場及び場外発売所4箇所でのJRAの発売 (H25. 6)
- 深川場外発売所を新規開設 (H25. 8)
- 11月中旬からの15日間をこれまでのデイ開催から準ナイター開催として実施 (H25. 11)
- 1月中旬からの30日間をこれまでのデイ開催から薄暮開催として実施 (H26. 1)
- 東海以西のスポーツ紙への馬柱掲載 (H27. 1)
- 名寄及び深川場外発売所でJRAの発売 (H27. 4)
- 拡大馬番号二連勝複式勝馬投票券(ワイド馬券)の導入 (H27. 4)
- SPAT4発売日数を全日程、全開催日へ拡大 (H29. 4)
- 全国のスポーツ紙への馬柱掲載拡充 (H29. 4)
- 網走場外発売所にて後半3レースのJRA発売開始 (H29. 4)、その後後半5レースに拡大 (H29. 10)
- 発売拡大のため、月曜日を中心に1日12レース編成を実施(17日間) (H30. 11~H31. 3)
- 直営場外発売所において、非開催日の他場発売増 (H31. 4)

② ファンサービスの向上

- 競馬場スタンドの大規模改修 (H19. 4)
- バックヤードツアーの実施 (H19. 4)
- ビギナーコーナーの設置 (H21. 4)

- 帯広競馬場内に「とがちむら」オープン (H22. 8)
- 一部有料化によるスカパーでの全レース実況生中継の開始 (H23. 4)
- 朝調教ツアーの実施 (H23. 4)
- 模擬レースの実施 (H24. 7)
- ゴール映像スロー再生機器の導入及び映像配信 (H27. 1)
- レース映像のHD化 (H27. 4)
- ふれあい動物園のリニューアルオープン (H27. 4)
- ホームページのスマホ対応 (H27. 4)
- 場内トイレの改修 (H27. 4)
- 情報誌(ポムレ)発行 (H27. 7)
- スタートゲート馬番号表示のLED化 (H28. 4)
- ビギナーコーナーなどの1階中央部分改修 (H28. 4)
- FM東京でのばんえい十勝PR放送 (H28. 7～9)
- ばんスタ放送やSNSを利用した情報発信事業 (H28. 6)
- BG1レース時における来場ポイントサービス開始 (H28. 7)
- 蒲郡競艇場(競馬施設以外)でのばんえい十勝PR活動 (H28. 8)
- 帯広競馬場内に4カ国語対応外国人向け場内案内看板の設置(H29. 2)
- 帯広競馬場内のWi-Fi環境を整備(H29. 3)
- ばんえい十勝10周年記念誌制作 (H29. 3)
- ニコニコ競馬チャンネルによるばんえい競馬生放送 (H29. 4)
- ばんえい十勝ホームページリニューアル (H29. 4)
- ばんえい十勝10周年記念に伴う記念品制作や各種イベント等の実施 (H29. 4～H30. 3)
- セルフ式携帯電話充電器の設置 (H29. 4)
- 案内表示看板改修及びビギナーコーナー後方パネルの設置 (H29. 4)
- フランスでのばんえい競馬写真展示への協賛 (H29. 7)
- 外国語(4ヶ国語)パンフレットの制作 (H29. 10)
- 川口オート(競馬施設以外)でのばんえい十勝PR活動 (H29. 12)
- 地元情報紙(しゅん・Chai・どうしんデリバリ)への広告掲載開始(H30. 8)
- JRA施設(札幌・東京競馬場)や地方競馬場(大井競馬場)でばんえいVR動画体験事業 (H30. 8. 10)
- 戸田競艇場(競馬施設以外)でのばんえい十勝PR活動 (H30. 9)
- 表彰台リニューアル (H30. 12)
- 東京KITTEにおけるばんえい十勝PR活動 (H31. 3)
- ばんえい十勝ホームページリニューアル (H31. 4)
- 地元情報紙への協賛広告掲載拡充 (H31. 4)

③ 経費の削減

- 帯広競馬場の馬券発売窓口の自動発売機化 (H20. 4)
- 旭川場外発売所の移転 (H21. 4)
- 北見場外発売所の移転 (H21. 7)
- 発売窓口体制の見直し (H25. 4)
- 包括的事務委託の見直し (H26. 4)
- 場内照明の一部LED化 (H27. 1)
- 走路及び駐車場等の大型照明のLED化 (H27. 4)
- 電力自由化に伴い、競馬場スタンド及び厩舎地区の電気契約会社の変更 (H28. 10)
- 現金輸送手法の見直し (H29. 6～)
- 電力自由化に伴い、一部直営場外発売所の電気契約会社の変更 (H29. 12)
- 発払機の入替 (第7次端末) (R1. 10～)

④ 競走馬の確保

- 優良農用馬資源確保緊急特別対策事業 (生産者賞) の実施 (H19. 4～H29. 3)
- 新馬導入推進助成事業の実施 (H23. 4～H26. 3)
- 優良2歳馬導入促進対策事業へ名称の変更 (H26. 4～)
- 帯広市独自の生産者賞の創設 (対象3～5歳馬) (H27. 4～)
- 帯広市独自の生産者賞の拡充 (対象古馬) (H30. 4～)
- 優良輓系馬生産奨励金の交付 (対象新馬 (2歳馬)) (H31. 4～)
- 農用種雌馬貸付事業の創設 (日本馬事協会による) (R1. 6～)

(4) 運営改善の成果と課題

様々なファンサービス向上策や積極的な広報活動に加え、映画やテレビドラマなどをはじめとする各種メディアでも数多く取り上げられたことから、ばんえい競馬は全国的に注目度を増してきています。

入場人員も、「とちまちむら」オープンを機に増加し、また、旅行会社の団体ツアーなどの観光客が多数帯広競馬場を訪れるなど、地域の重要な観光拠点として定着しています。

発売額増加に向けて、様々な取り組みを展開してきたことにより平成24年度から増加に転じ、特にインターネットなどの電話投票は大幅に増加している一方で、ナイター開催を実施する他主催者が増えてきていることや本場・直営場外における発売額の減少傾向が続いています。

今後も引き続き、収益の確保に向け、本場入場者数の増加を馬券購入につなげていくための方策の実施や、馬柱の掲載を拡充するなど、全国公営競技ファンへの積

極的な情報発信による勝馬投票券発売額の増加等により収入の確保を図り、ばんえい競馬の安定的な運営を目指す必要があります。

また、競馬事業を継続して開催していくためには、老朽化した競馬場施設及び設備などの更新・改修や、競走馬の安定的な確保が不可欠であり、関係機関と連携した取り組みを進めていく必要があります。

さらに、ばんえい競馬を地域の貴重な観光資源として十分に活用するとともに、より多くの市民に様々な機会を通してばんえい競馬への理解を深めていただくことにより、地域全体でばんえい競馬を支えて地域振興へとつなげていくことが大切です。

5 今後のばんえい競馬の展開方策

(1) 基本的な考え方

北海道の開拓の歴史を伝える文化であり、地域の貴重な財産でもあるばんえい競馬を今後とも安定的に運営していくためには、多くの市民理解を得ながら、主催者である帯広市はもとより、競馬関係者が一丸となって様々な収入増加策やコスト削減策などに取り組み、馬主や生産者などが一定の将来見通しに基づいてばんえい競馬に安心して関わるができる環境をつくる必要があります。

また、世界で唯一、帯広競馬場で開催されているばんえい競馬は、今や帯広・十勝の重要な観光資源ともなっており、観光客の誘致によって地域振興を図ると同時に、競馬場への来場者の増加を経営の改善へとつなげていくことが大切です。

そのためには、全国の公営競技ファンへの積極的な情報発信により勝馬投票券の発売額の増加につながる取り組みを進めるとともに、老朽化が進んでいる競馬場施設及び設備の更新・改修や競走馬を安定的に確保していくための取り組みなどを通じてばんえい競馬を継続して開催していくことが重要です。

このことから、全国の主催者が一体となり策定した「地方競馬活性化計画」の各種取り組みに基づいて施策を進め、老朽化した施設及び設備の整備を計画的に実施していくとともに、収支均衡以上のばんえい競馬事業を運営していくために、徹底したコスト削減や収入の確保等の具体的な方策と併せて収支見通しを示すこととします。

また、安定的な経営の基礎となる騎手や厩務員の人材確保および育成についても、広報活動や研修を増やすなどの取り組みも進めていきます。

なお、公正な競馬の確保は、公営競技の根幹をなすものであり、競馬の継続的な開催にあたって、今後とも競馬関係者が一丸となって取り組んでいかなければなりません。

(2) 具体的な取り組み

① 収入の増加・確保策

- ホッカイドウ競馬、南関東競馬など、他主催者との連携を強化し、相互発売の拡充による他場での発売日数の増加及び業務協力費の増収を図ります。
- ナイター開催日数の増加により、全国の競馬ファンへの浸透を図り、インターネット投票を中心に売上増加につなげます。
- 帯広競馬場・直営場外発売所における中央競馬の勝馬投票券の発売の拡大に向けた取り組みを進めます。
- 新たな直営場外発売所の開設に向けた取り組みを進めます。
- 観光客や初心者向けに、簡易な形態にした情報紙（イージーフォーム）を発行します。
- 協賛レースの参加について、積極的に働きかけを行います。
- 帯広競馬場内で実施されている各種イベント等について、勝馬投票券の売上増加につながる仕組みづくりを行います。
- 競馬場スタンドに、新たに有料席を設けることを検討します。
- 中央競馬電話投票システムによるばんえい競馬発売に向けて要請を行います。
- 新たな勝馬投票券購入者を確保するため、電話投票業務委託会社等と連携した積極的な販売戦略を展開します。
- スポーツ紙等への馬柱の掲載地域拡大および掲載レース数の増のほか、各種メディアの取材への協力などにより、積極的な情報発信を行い、売上増加につなげます。
- 他種公営競技及び地方競馬主催者との連携によるPR活動等により、ばんえい競馬の魅力の発信を行うとともに、勝馬投票券の購入につなげるよう、積極的な情報提供を行います。
- 若者や女性などを対象としたイベント等を拡大し、ばんえい競馬の魅力を伝えるとともに、ファンの拡大を図ります。
- 売場上げの減少を避けるため、他主催者との開催日程及び発走時刻の重複の調整を行います。
- レース体系の整備や見直しを行い、魅力あるレース番組づくりを図ります。
- 地方競馬主催者間での一元的な競馬開催情報や発売投票数等各種データ送受信機の整備及び映像提供システムの整備を進めます。
- ホームページによる情報発信のさらなる充実を図ります。

② 徹底したコスト削減策

- 水道、電気料金及びゴミ処理費用の節減に努めます。
- 帯広競馬場・直営場外発売所の発売体制の見直しや運営の効率化により、勝馬投票券の発売コスト削減を図ります。
- 他の地方競馬主催者とともに、勝馬投票券のインターネット発売会社に対して手数料率の見直しを求めます。
- 競馬場施設及び設備の整備などにおいて、各種補助・助成事業の活用に向けた情報収集に努めます。
- キャッシュレス投票機導入について検討を進めます。
- 帯広競馬場・直営場外発売所のLED化について検討を進めます。

③ 農用馬の生産振興及び競走馬確保策

- 地方競馬全国協会等の支援を受け、生産者対策及び新馬の導入を推進します。
- 農用馬は道内一円で生産されていることから、農用馬の生産振興に対する北海道の支援を求めます。
- 馬主等への報償費については、収益の確保に努め、適正な報償費の水準の維持に努めます。

④ 観光資源としての活用策

- 観光関係団体との連携により、ばんえい競馬を組み込んだツアーの誘致を図ります。
- 競馬が開催されていない日でも、帯広競馬場を訪れた市民や観光客が馬とふれあえる機会を増やします。
- 競馬関係者の協力を得て、競馬の非開催日もしくは開催日のレース前の時間を活用して「模擬レース」を実施し、観光資源としてのばんえい競馬の価値を高めます。
- 首都圏や道内での観光PRイベント等にミルキー号・キング号・ハクウンリュウ号・フクスケ号のPR馬を派遣し、十勝の観光情報とともにばん馬やばんえい競馬の魅力を伝えます。
- 観光客のニーズに応えるため、VRコーナーを新設するほか、バックヤードツアーなどの体験型メニューやイベント数の増加・拡充を図ります。
- ボランティア等の協力を得ながら、ふれあい動物園の充実を図ります。
- 観光交流拠点施設「とちまちむら」との連携を強化し、帯広競馬場を競馬ファンだけでなく、市民や観光客にも楽しめる施設となるよう取り組みます。
- テレビ、旅行関係雑誌、新聞広告などを活用した広報活動を展開し、情報発信に取り組みます。

- 初心者向けガイドブックや外国人向けガイドブックの充実を図り、来場者に対するサービスの向上に努めます。
- 各関係団体の協力を得て各種イベント等を開催し、帯広競馬場が市民や観光客にとって楽しめる施設となるよう取り組みます。
- 競馬場内及び場外発売所にW i - F i環境を整備し、観光客に対するサービス向上を図ります。
- 騎手のイベント参加等、ファンとの交流の機会を増やし、ファンサービスに努めます。
- SNS（フェイスブック・ツイッターなど）のさらなる活用を進めます。

⑤ 市民理解の醸成

- 地域の行事や学校・福祉施設等への囑託馬の派遣を通して、健全で魅力ある体験型レクリエーションとして市民が「ばん馬」とふれあえる機会を増やし、ばん馬やばんえい競馬への理解を深めてもらえるよう努めます。
- 十勝管内の町内会や農業関係をはじめとする各種団体などが実施する行事や施設見学ツアーなどのコースにばんえい競馬を組み入れてもらうよう働きかけ、理解を深めてもらえるよう努めます。
- 帯広競馬場情報誌（ポムレ）の発行により、ばん馬やばんえい競馬などについて、地域への周知および市民理解の浸透を図ります。
- 競馬関係者の協力を得て、競馬の非開催日でも競馬場で馬文化を学ぶことができる機会を増やすなど、帯広競馬場がいつでも馬にふれあえる場として市民に身近な存在となるよう努めます。
- ばんえい競馬の歴史が馬産地や馬文化をはじめとした、地域を背景にして成り立っていることを、次世代を担う子どもたちなどに伝えていくため、生涯学習施設や各種学校施設と連携し、地域教育の一環となるような取り組みを進めます。
- 単年度黒字を確実に維持し、経営を十分に安定させたいうえで、各基金の積み立てに必要な費用を確保しながらも、収益金の一部を活用し、地域振興に資する取り組みを行うことで市民への公益性の周知を図ります。
- 地域に活用される競馬場とするべく、市民の活動拠点としての競馬場の利活用の手法について、検討していきます。

⑥ 公正な競馬の確保

全ての競馬関係者が法令遵守の重要性について認識し、規律の厳格化及び公営競技に携わっている自覚と緊張感をもって業務に当たり、公正な競馬の確保を図ります。

⑦ 施設及び環境整備

安定的な収支のもとに必要な修繕や改修などの環境整備について実施していきます。

【検討している主な事業】

- 厩舎建替
- 厩舎地区バックヤードツアー順路の整備
- 練習走路改修
- 装鞍所建替
- 特別観覧席設置

(4) 収支見通し

■ばんえい競馬会計の今後の収支見通し

(単位:百万円)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備 考
収 入	29,090	29,140	29,190	
勝馬投票券発売収入	27,490	27,490	27,490	
業務協力費	600	650	700	他地方競馬、中央競馬発売額増
その他	1,000	1,000	1,000	寄附、利子ほか
支 出	29,020	29,070	29,120	
法定等経費	20,500	20,500	20,500	払戻金、地全協等負担金
業務協力費	3,210	3,210	3,210	電話投票発売額
開催経費	5,310	5,360	5,410	
収 支	70	70	70	